

救
助
ニ
関
ス
ル
件

1893

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大正六年七月廿五日

水信

月

日發付

發付掛

發付後起
案者捺印

軍務局長 圭

第一課長 宗

次官

副官

參事官

局員 水

大正六年七月二十五日
三重縣急務
次友

電報

七月二十五日

軍艦音羽在石原町時以大王塔附近之坐礁

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
													受月日發月日

1894

危険^ニ瀕^シツツアリトノ報告ニ接シ互急救助ノ為
軍艦津輕ヲ派遣シタルモ後ニ時以ナラハ到^リ看
セサル見入^ルナルニ依リ不取敢救助方^ニ法^キ最^モ速^クノ官
憲ノ援助力ヲ得^度

(終)

軍務局

横須賀電話要領

(二十五日午前七時)

音羽救助ノ為栗橋丸ニ出港ヲ命ズ
準備ニ約六時間ヲ要ス

二津輕伊勢湾ヲ帰港ノ途ニアリシカ
神子丸附近ヲ引返シ現場ニ向テ

第一課
第二課



海軍

(花輪)

1896

6.7.25

軍務局

次方元 二十三年三月 三三三三三三

海軍

軍艦音羽大王島、其東南ノ上晴礁ト中間ニ突入陸礁シ
船作箱傾斜ス 乗組者全部ノ無事 重要書類其他重要
品ヲ揚建山ニシテ 重要書類、波切等案分署、薩摩等ノ
保護ノる搬入中 救助経事者、役場員、送客署員、
去り手等在即軍人令 演業如令員ニシテ、津城二十隻余
ノ供用経事ス由をぬク、在り午二ノ九分、吉田兵車
津波 神取保安深波ヲ、ケイサリ、他 船ニ脱塔、派遣ス
々時ニ島即波ヲ急行セリ

第一課
第二課

村瀬
高崎

(安田納)

紙 罪 案 起

大正六年七月二十五日起案 起案者 陸印
 七月廿九日發付 發付掛 陸印
 發付後起 案者捺印

主務 軍務局長 **重** 第一課長 **重**

大 ~~橋~~ 副官 **大南** 局員 **村**
 次官 參事官

艦政局長 **田**

人事局長 **岡田** 第一課長 **志** 局員 **利**

經理局長 **勝** 第一課長 **加藤**

軍令部長 **重**

至 急 電 報 第一班

大正六年七月二十五日 大臣

橫 鎮 長 官 宛

一、其、府港務部長海軍大佐久保來復

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	七月廿九													
發月日														

ヲ立日救難作業指揮官トシテ同艦遭
難地ニ出張セシムヘシ

二軍艦津輕運送船高崎及栗橋丸ヲ急
速遭難地莫ニ派遣シ前項指揮官ノ

命前項艦ヲ承テ右救難作業ニ従事セシムヘシ
三前項時其ノ府ヨリ技術官及潜水職工

若千名其ノ他必要ノ人員ヲ派遣シ又適宜
要具ヲ送致スヘシ

電報

七月五日

大正六年七月二十五日

次官

音羽艦長宛

右ノ通横鎮長官ニ電訓セラレタリ

(前出電文入)

終

美田納

板

軍務局

横領手紙

(廿多午多左の時五分海)

軍

栗橋丸に搭載之キ物件左ノ通

鍋四個 一噸半 三噸 一 二噸 一

ケール 一吋半 一四部

スチールワイヤ 二分 六吋 四吋半 五分 五分 五分

鋼ニラロープ 三 五吋 二吋半 一

付馬車 二

ワイ 一。

シヤック 三。 至他所屬ヲ

潜水器 四台 枚数 不明 打撃 一磅

救難機 若干 若干 一磅

日船 二 二吋 若干

津船 二 二吋 若干

高崎 二 二吋 若干 工事中止 略 廿多夕カ 廿六日 船 出 発 云 云

の 手 紙

横領納

1900

海軍

誌

海軍局長

横領電

常橋

音羽

届

の

の

の

の

の

の

の

の

故

南

海

水

海

水

1901

栗橋報告其式

天候引続キ良好トハ引揚ノ見込充分ナリ予定
ノ救難人員及材料ヲ積込ニ刻モ早ク高峯
ヲ派遣セラルルハ時間三十分以上及之ニ相
當スルボイラーヲ送ラシタシ共第一機銃又丸ヲ
送ラレハ便利ナリ

塔鐘取込

高峯ノ準備強クト終了ヲ定テ午後六時
ニ得ル見込ノ塔鐘取込ニ四八六〇トノ栗橋ノボ
トノ中移動ニ得ル見込ニ式〇〇〇トノ計六八六〇ト

海軍

ノ移動に得んおるアリ之に對し高橋ノ有るに移動
途五三〇〇也とあるスモナリ
才去塔修多丸 (掛舟三ニトシ) ハ此廿七ノ朝出発
セシムル也

(終)

1903

陸軍省
陸軍部
陸軍大臣
陸軍少将
陸軍中将
陸軍大佐
陸軍少佐
陸軍中佐
陸軍少佐
陸軍中佐
陸軍少佐
陸軍中佐
陸軍少佐
陸軍中佐
陸軍少佐
陸軍中佐
陸軍少佐

供覧
大

陸

經理局防
陸政局防

軍務局
生

指針電流

(大時廿分)

第一課長
第二課長
第三課長

加藤
村瀬

海

政艦
6.7.26
受接

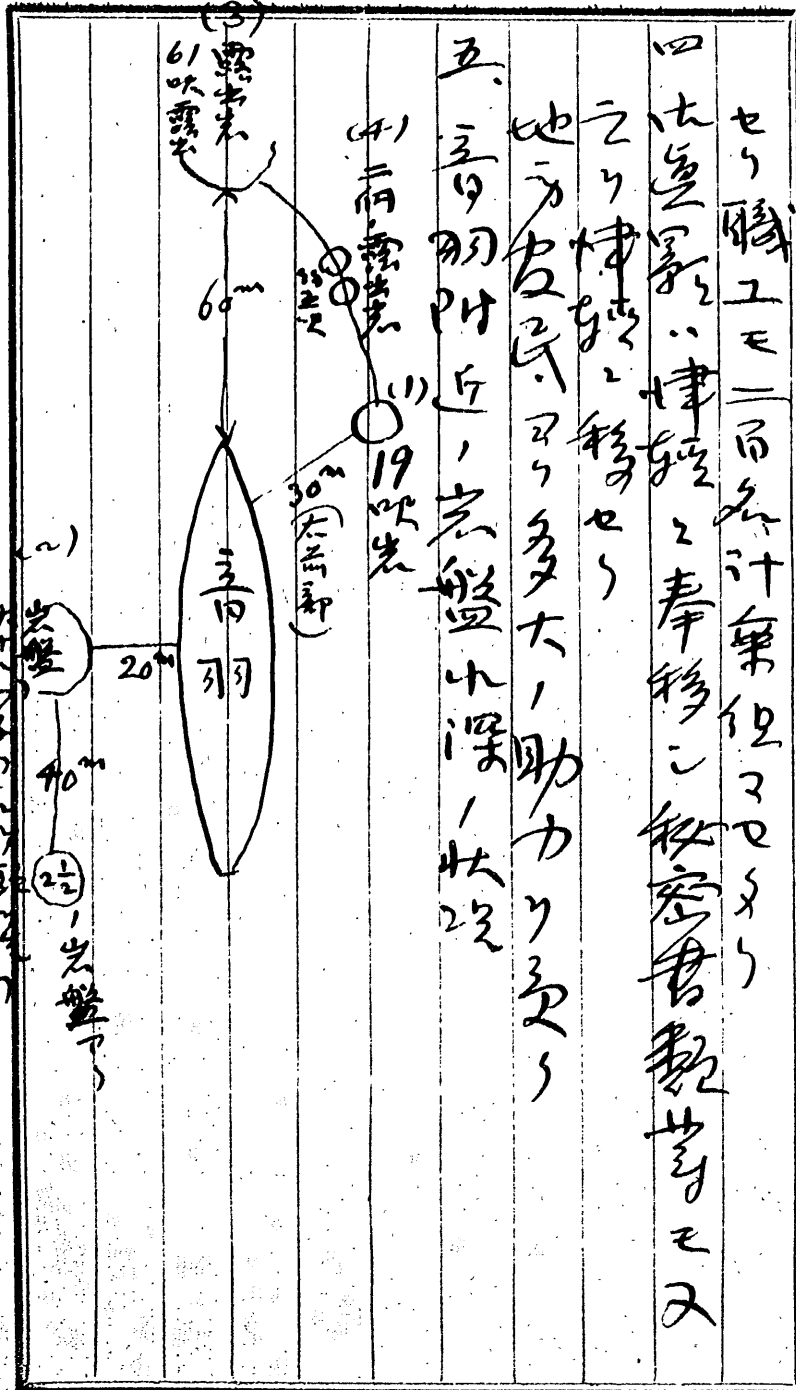
略々長友三大臣(補)先任、其略概要
一 粟橋二氏廿五日午後二時四十五分(港々)
二 高崎三氏廿六日中二準備(港々)其略(港々)
三 音羽三氏廿七日南方(港々)南方(港々)南方(港々)
長三氏付沖ヨリ沖津(港々)直々(港々)船ヨリ(港々)
二ト(港々)置ト(港々)取(港々)アル(港々)送(港々)付(港々)付(港々)ト
連(港々)業(港々)ノ(港々)要(港々)ヲ(港々)認(港々)メ(港々)高(港々)崎(港々)ヨ(港々)リ(港々)送(港々)付(港々)付(港々)ト
故(港々)新(港々)材(港々)料(港々)人(港々)員(港々)ハ(港々)大(港々)故(港々)新(港々)用(港々)上(港々)ト(港々)出(港々)ス(港々)ト

1904

ニ 19

陸軍省

軍務局受
6.7.26



せり職工モ二百名計集但マセリ
 四丈迄家ノ棟柱ノ奉移ニ秘密書教サモ又
 之リ棟柱ノ移セリ
 地ノ右民ノコウ多夫ノ助力アリ又
 五、三日月附近ノ索盤水深ノ丈
 (4) 二両露末
 (1) 19吹末
 30m (大船部)

海軍

1905

海軍

三日羽前記五老ノ内ニアリ船ヨリ三十乃至六十
 半交ノ間ニ此五老ヲ除ケル水深五尋乃至七尋
 トナルニ船尾ニ九尋乃至十尋アリ
 二、船首ニ船尾ノ状態
 船首ニ約一尋水面ニ出テ船尾ニ水面線約一呎
 水面ニ出テ候ナリ
 七、其後津輕船長ノ言
 大正附近ニ三日車毎朝濃霧、二三向先
 廿工見工廿工トアリ此二三日ハ幸ニ海面
 静ナルモ波高アリハ右船側ノ十九呎高波
 之後ハ此状況ナリ故ニ此際力作業ナリ

1906

海軍

必要ヲ認メテ備ケルコト

八、音羽ノ現金十一万圓ト百五十磅ノ皆押銀ニ

テ交ハルコト

其後ノ報告

官民ノ多大ナル助力ニ由リ一豆三分の如ク陸上ニ

移シタル兵器其他ノ銃ヲ津波ニ轉込メテ

定衛ニ署録シ婦人團百四名迄如常ニ働

ケル

右部隊系庫^{兵器}諸倉庫ノ物品ニ銃ヲ押送シ

ル入ル

軍兵ニ必要ノモノノ如ク三分の如ク他ノ津波ニ

1907

軍務局

大正六年七月二十七日午後八時三十分受

横須賀電報

横須賀港部長

海軍大臣宛

第一課

津軽無線電信

音羽作業予定

(一)七十番の山前方、栗橋丸ノ相シフヲ以テ

明朝ヲ排水ニ着手シ明日中ニ同所ヲ

空虚ニシ内部ニ有スル重物ヲ総テ却テス

(二)本日ヲ後部ニ砲ヲ除ケル他ノ凡テノ

砲ヲ却方ニ着手シ甲板ヲクリアシスル

事ニ努ム

前船橋

(花時)

1909

軍務局受
6.7.28

(三)七十番前部ノ排水終ラハ前中後罐室
 内排水ニ着手(但シ栗橋丸ハポンゾラ
 以テ)ソレト同時ニ上甲板ニ敷難ノ為メ
 持チ來リシ「ホイラ」据付排水準備ヲナス
 若シ栗橋丸ニテ成功セザル場合ハ右据
 付装置ニテ排水ス
 (四)艦底ノ損所ハ既ニ調査済シモノハ排水前
 ニ假水防工事ヲ施シ其ノ他ノ部分ハ毛
 布ヲ差込、臨時的ニ防水スルモノトス
 (五)栗橋丸ノ排水成功セハ本月中ニ引キ卸
 シテ得メク不成功ニ終ラハ来月五日頃別
 ニ据付ケタル装置ニテ排水ニ着手スル事
 定

(花特納)

海軍

1910

(1)

紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正六年七月廿九日午前四時三十分受

海軍省

高橋九之祐少保港務部長

横鎮參謀長

軍務局長

無線電信

音羽前部一抽水一時停調之行ハレ元午五時
(廿八日)以テ俄然悲境ニ陥リ原因ノ探求ニ勉
ムルニテ突見スルヲ得テ加フニ音羽栗橋九ノ連
絡ノ子リノ為ノ諸部ニ無理ナル張力ヲ及ビ
停止錨索ヲ切斷スル等面白クナリ横鎮
ノ正子抽除ヲ決メ水作業ヲ中止

音羽栗橋

1911

(2) 紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正 年 月 日 午 時 分 受 海軍省

二重の排除ノ方法ヲ請ヒ、
晴海上ノ變化ナシ
右報告ス
})
天候快

1912

(1) 紙用記筆話電府守鎮賀須橫

大正六年七月廿八日午後九時 分受 海軍省

高橋九之助ヲ久保港務部長ヨリ

横鎮長官 兼無線電信
軍務局長

今朝七時栗橋九ヲ音羽右舷後尾ニ繋ぎキ
前部正劃ノ排水ニ着手セシム。ウチノ一爲ノ船
体互ニ動觸シ栗橋九ハ船側並ニ器具ヲ挫損シ
危險ト困難ヲ感スルコト多大ニ依リ午後三時栗
橋九ハ錨ヲ解シ向キテ東ヘケル用ニ合作セリ
開始セリトス。五時三十分頃準備整ヘテ

1913

(2) 紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正 年 月 日 午 時 分 受 海軍省

徹夜排水ヲ実行セシム、其他ノ事業ハ全
室ニ對スル排水装置ヲ取付準備トシテ土台
掘付、邪ノ物ヲ取外シ、テリクノ建設等ノ作業
穿ル格中

了

1914

軍務局

供

分七
支更
証上



大正六年七月三日

午前〇時十分
午後二時十分
午前二時十分者内
局着

受信者 軍務局長

電報譯

発信者 高崎 機務部長

予九日未明より前部区畫漏水、箇所探査、結果
 防水、閉鎖十分ナラザルアリ、之レが閉鎖ト
 船倉、密閉条ノ束、嚴重ニ調査ヲ行ヒ直、排水
 着手セシトスルニ、尤大ニ長崎、
 音羽附近ニ接シ、
 二重ノ要柵丸葉員、間断ナキ努力ニ逐ヒ、其ノ日
 的ヲ達スルニシテ、海ノ天候快晴、海上靜穏ナリト雖モ
 長崎ノ日々其ノ大サ加ヘ流潮ニ其ノ勢ヲ増シ、若クモ

(第四號)

有

海

軍

1915

海軍

大正六年 月

日 午後 時

分

局發

日 午前 時

分

局着

發信者

受信者

電報譯

作業者困難ヲテイカシ殊ニ重要物ノ積卸ニシテハ
 痛心ニ堪ヘんモノアリ、幸ハハ午暇トシテ一
 要スル機一基ノ積載ヲ決行シ速ニ排水ニ着手シ得
 ン標準俾テ急キツク
 此報告ス

(實田船)

1916

軍務局

供覽

大臣

大正六年七月三十日 午後一時

分核 總局 發
分本 務局 着

電報辭

畫夜奮闘セル者幸音、努力ニヨリ千噸
即筒一基、松付了、下、
部、排水機、施了、好況ニ由リ、
既ニ其兄を換定、急修現、
せん毛、叶、来、シ、示リ、
一、異、動、ヲ、来、セ、
一、同、下、外、観、上、
ハ、船、体、傾、斜、七、
ハ、船、体、傾、斜、七、

海軍

1917

紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正六年七月三十日 午前六時五十分受 海軍省

海軍省副官

高崎 第一課 第三十回 午後三十分 横須賀鎮守府受
 港務部長ヨリ 軍務局長ヨリ

本日午前十時千毛岬岨一出口ノ艦付ヲ終リ
 タルニヨリ七十番ハバルグセツト前頭下甲板ノ排水
 斗行ヒタルニ約一呎減水セル後更ニ減速スル
 模様ナキニヨリ船体各部ヲ調査セシニ右舷
 七十三番外板燭岩部ニ於テ新タナル破口ヲ
 発見セルモ陣士官^室内ナルヲ以テ内板ヲ打テ破
 目^ノ下防水ニ事^ヲ進^シ中ナリ午後一時

1918

軍務局受 6.7.31

横須賀鎮守府電話筆記用紙

大正 年 月 日 午 時 分 受 海軍省

及び海水益々高まり上甲板「ボイラーケージ」
 前例ニ據付ケタル干屯脚筒ハ舷側ヲ越テ
 干打ヲ込シ来タル潮流激甚ニシテ「スエート」
 脚筒ガクシヨシハ為ニ洗ヒ去ルルニ等シ故障
 ヲ生シ到底其ノ運轉ヲ續行シ難キヨリ
 遺憾ナカラシ排水中止シタリ目下
 適處ノ所置ヲ施シ更ニ排水ニ着手
 スベク順當ナリ

（後）

1919

紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正七年七月卅一日 午後五時五分受 海軍省

港務部長ヨ 横須賀海軍省 軍務局長ヨ 電報

本日午前十時下甲板右舷前部ノ防水
 終リ排水ヲ試ミタルニ前日ノ如ク約一呎以
 上ヲ排水スルヲ約久シク同部方ヲ更ニ調
 査セシメタルニ新ニ破口ヲ發見セリ
 到底外サシヲ防水スルノ足込ナリ故
 ニ前記部方ヲ包メル木製隙壁ノ竣工
 ヲ待テ新ニ排水ヲ試ミントス 艦ノ煙囪
 等(略) 昨日ノ如ク傾斜右舷ニ十二度

1920

軍務局受

紙用記筆話電府守鎮賀須横

大正 年 月 日 午 時 分 受 海 軍 省

今午七時、吃水船五十二噸、六時船及
 十七噸、三時中央部、波浪、颯々作
 業員、^激浪、渦中、あり、活動、止、ル、
 光景、實、之、惨、状、あり
 本日大型、お、い、う、積、込、事、業、之、際、し、テ、非、常、に
 困難、ナリ、し、之、拘、り、久、津、地、之、高、水、高、水、業、員、
 勤、誠、甚、金、力、之、一、時、々、終、了、ス、ル、コ、ト、ナ
 リ
 右、報、告、ス

丁 撫

1921

軍務局

大正六年七月

三十一日

午後

十時五十五分

海軍局着

午前

時分

局發

(明正印刷納)

發信者

港務部長

受信者 軍務局長 横鎮參謀長



第一課電報譯

本日午前十時下甲板右舷前部、防水終
 排水ヲ試ミシルモ前日、如ク約一呎以上ヲ排
 水スルヲ得ズ依テ同部分ヲ更ニ調査センノ
 シルニ新ニ破口ヲ見セリ
 到底外板ヲ防水スルノ見ハナキガ故ニ前
 記部分ヲ包メル木製障壁ノ竣工ヲ
 待テ新ニ排水ヲ試ミントス艦ノ状態心略
 昨日、如ク傾斜右舷ニ十二度今朝

海軍

1922

軍務局受

6. 8. 1

七時、吃水艦首三十二呎六吋、艦尾十セ
 呎三吋、中央部ハ波浪~~洗~~ハレ作業員
 ハ、浪^浪過^過中ニアリテ活動シ居ルノ光景
 實ニ慘^慘膽^膽タリ
 本日天型ボイラ^積ハ事業ニ際シテハ非
 常ナル困難ナリシニ拘^拘ハラス津輕音羽
 高崎東員ノ熱誠ナル盡力ニヨリ^無
 終^終了スルヲ得タリ
 右報告ス

(花崎繪)

海軍

1923

郵政局



第四課



村越



村瀬



海



政艦 6.8.1

軍務局長



第二課長



局員

村瀬



軍務



大正五年七月

月三十日 起案
十月三日 發電濟

軍務局長

佐野 善謀 長宛

電報

音羽救難作業、後事、船形、補給用石炭
輸送、為午、横須賀出港、豫定、中山
ノ島羽、空の港セシムニ必要アリ、の如く取
相成タシ、今船、不取、敵今夕出港、人地、向
ハシム

1924

件

報 着 信 紙

軍 務 局

供 養

局 着		局 發		名 氏 所 居 人 信 受	
取 扱 者	受 信	付 午 後	付 午 後	第 三	ヨ コ ス カ
	一 時 分	〇 時 分	〇 時 分	第 三	ヨ コ ス カ
				月 日	ヨ コ ス カ
				號	ヨ コ ス カ

官 報

第 一 課

本 日 津 輕 大 王 派 遣 普 羽 乘 員
 収 容 上 横 濱 横 濱 帰 港 止
 港 務 部 長

オ ト ト 又
 コ ウ 也 女 一 三 十 一 十
 ヲ ノ ウ 子 一 〇 一 十 一 十
 ヲ セ ウ 一 一 一 一 一 一 一 一
 イ オ ウ 一 一 一 一 一 一 一 一
 本 二 ヒ ヲ カ

定 指

番 着 信 號	數 紙	名 氏 所 居 人 信 發
一	第 一	ヨ コ ス カ
二	第 二	ヨ コ ス カ
	號	
印 附 日 信 着		



事 記

1925